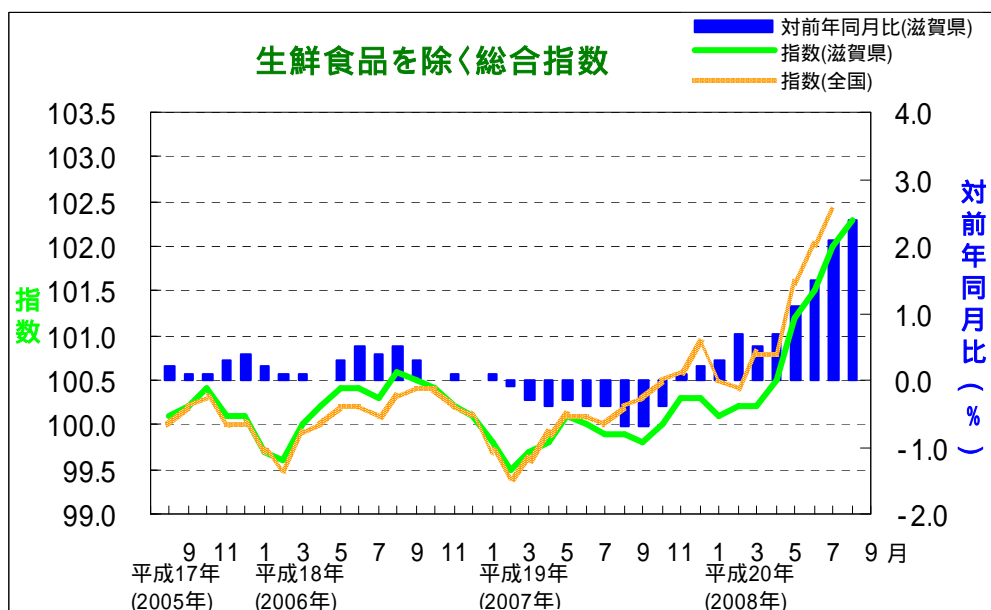
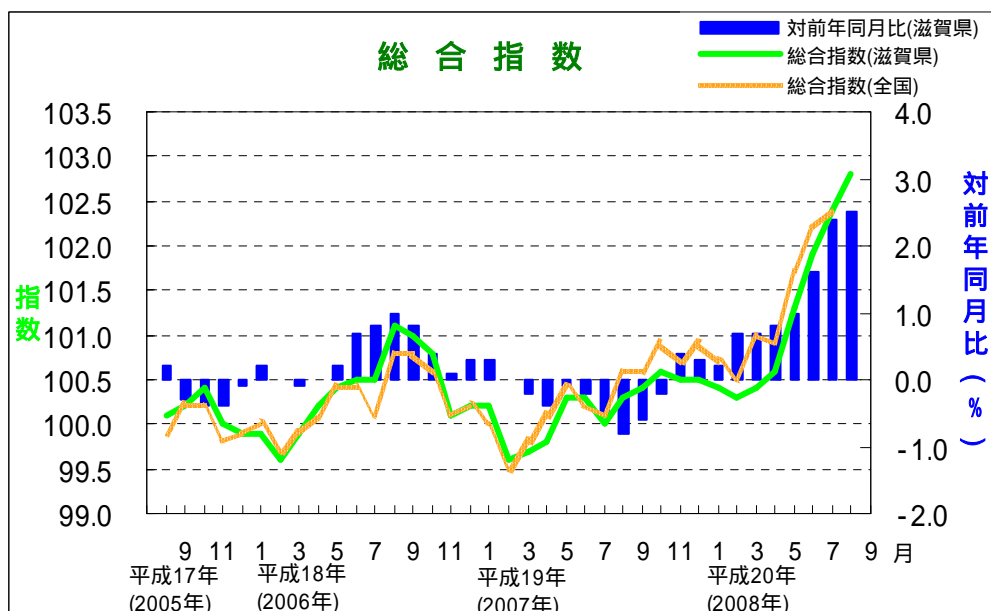


平成17年基準 **消費者物価指数（大津市）**
平成20年（2008年）8月分

平成20年8月分消費者物価指数（大津市）概況（平成20年9月26日公表）
前年同月比で10か月連続の上昇（平成17年=100）

総合指数 102.8（前月比） 0.4%上昇
（前年同月比） 2.5%上昇 **10か月連続の上昇**
平成10年3月(3.0%上昇)以来の高い上昇幅

生鮮食品を除く総合指数 102.3（前月比） 0.3%上昇
（前年同月比） 2.4%上昇 **10か月連続の上昇**
平成10年3月(2.9%上昇)以来の高い上昇幅



本日付で総務省統計局より消費者物価指数（全国）が公表されています。
<http://www.stat.go.jp/data/cpi/index.htm>

前月との比較

総合指数は102.8で、前月と比べると、生鮮果物が13.3%、教養娯楽サービスが2.2%上昇したことなどにより、0.4%上昇しました。最近の動きとして、平成20年2月(100.3)以降の6か月間で2.5%上昇しています。

生鮮食品を除く総合指数は102.3で、前月と比べると、0.3%上昇しました。最近の動きとして、平成20年3月(100.2)以降の5か月間で2.1%上昇しています。

上昇した中分類指数等の主な項目（寄与度順）

生鮮果物〔食料〕	(+)	13.3%
教養娯楽サービス〔教養娯楽〕	(+)	2.2%

下落した中分類指数等の主な項目（寄与度順）

肉類〔食料〕	(-)	4.5%
--------	-----	------

注) 中分類指数の項目のうち、寄与度および各指数の対前月比が比較的大きな項目のみを掲載しています。〔 〕内は、10大費目名です。

注) 生鮮食品（生鮮魚介、生鮮野菜、生鮮果物）については、小分類指数です。

【10大費目別に見た前月との比較】

食料	105.9 (+0.6%)	↗
住居	100.2 (変動なし)	→
光熱・水道	108.0 (+0.5%)	↗
家具・家事用品	97.3 (-0.4%)	↘
被服および履物	96.4 (-0.9%)	↘
保健医療	99.2 (+0.2%)	↗
交通・通信	107.3 (+0.7%)	↗
教育	102.8 (変動なし)	→
教養娯楽	97.2 (+1.4%)	↗
諸雑費	102.0 (-0.1%)	↘

前年同月との比較

総合指数は、前年同月と比べると2.5%上昇しており、平成10年3月(3.0%上昇)以降、これに次ぐ高い上昇幅です。上昇した中分類指数の主な項目をみると、自動車等関係費(8.3%上昇)、他の光熱(60.2%上昇)、外食(3.9%上昇)などの寄与度が高くなっており、上昇率では、10大費目の[光熱・水道][交通・通信][食料]が高くなっています。

生鮮食品を除く総合指数は、前年同月と比べると2.4%上昇しており、平成10年3月(2.9%上昇)以降、これに次ぐ高い上昇幅です。

上昇した中分類指数等の主な項目(寄与度順)

自動車等関係費[交通・通信]	(+)	8.3%
他の光熱[光熱・水道]	(+)	60.2%
外食[食料]	(+)	3.9%
調理食品[食料]	(+)	7.0%
穀類[食料]	(+)	7.8%
ガス代[光熱・水道]	(+)	8.7%
菓子類[食料]	(+)	6.3%
教養娯楽サービス[教養娯楽]	(+)	2.2%
電気代[光熱・水道]	(+)	3.7%
乳卵類[食料]	(+)	9.4%
生鮮魚介[食料]	(+)	6.0%
教養娯楽用品[教養娯楽]	(+)	4.2%
生鮮野菜[食料]	(+)	4.8%

下落した中分類指数等の主な項目(寄与度順)

教養娯楽用耐久財[教養娯楽]	(-)	21.0%
----------------	-----	-------

注)中分類指数の項目のうち、寄与度および各指数の対前年同月比が比較的大きな項目のみを掲載しています。[]内は、10大費目名です。

注)生鮮食品(生鮮魚介、生鮮野菜、生鮮果物)については、小分類指数です。

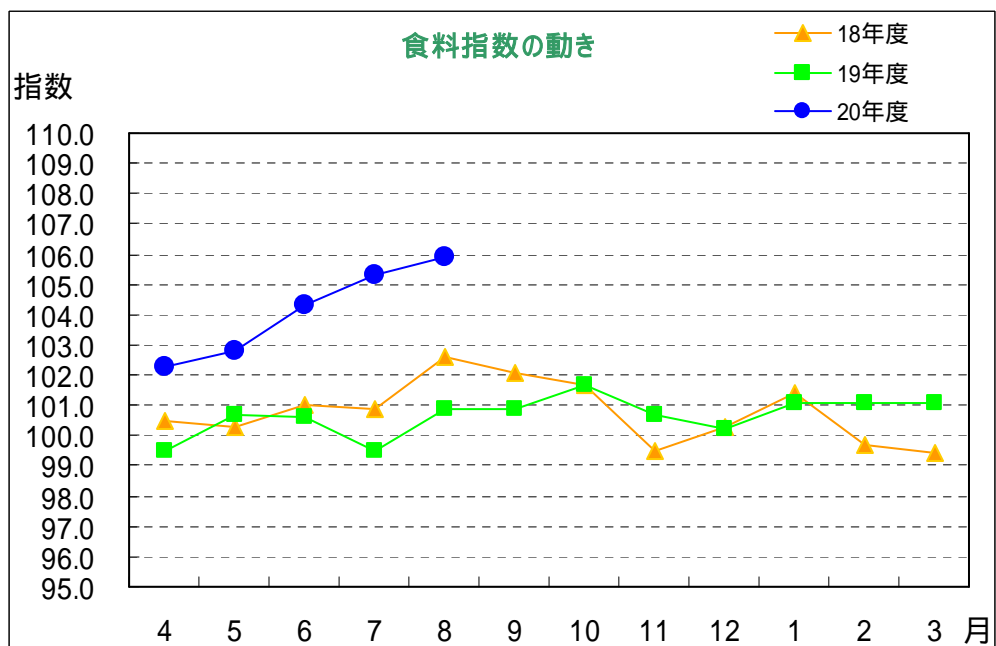
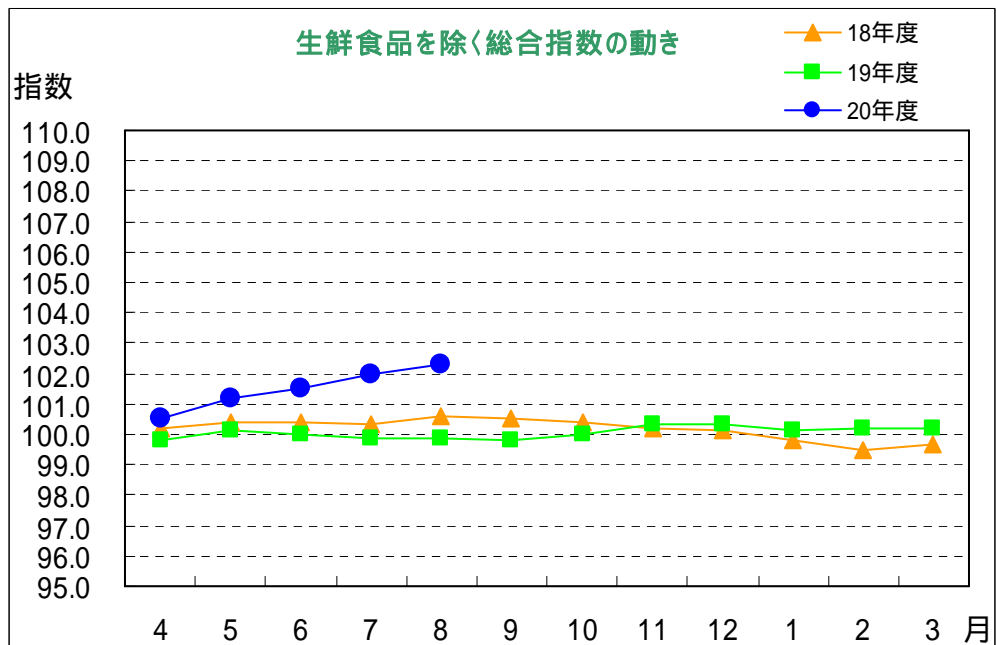
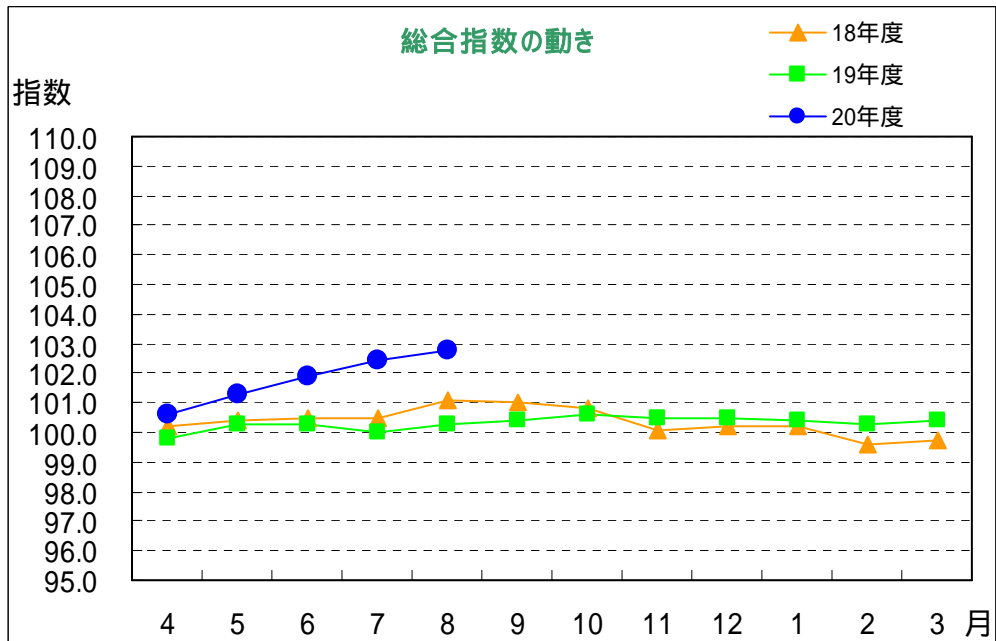
10大費目指数、前月・前年同月比および寄与度

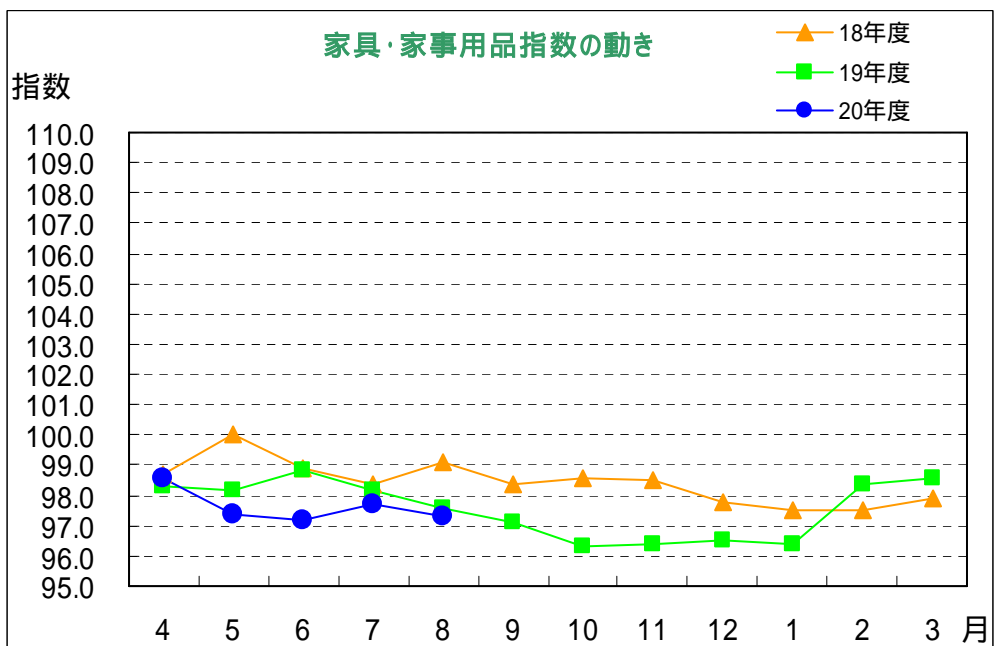
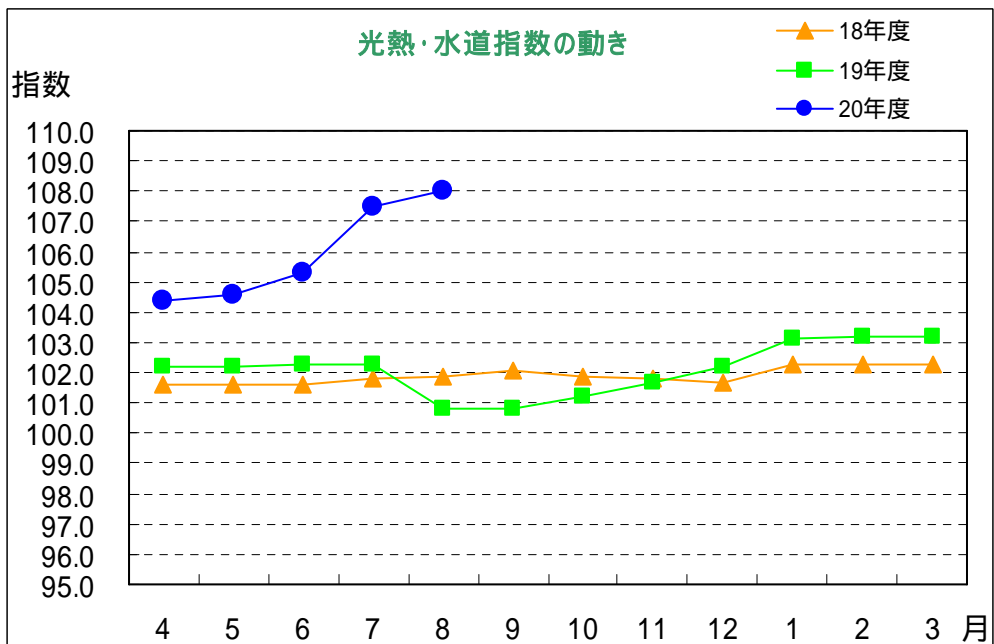
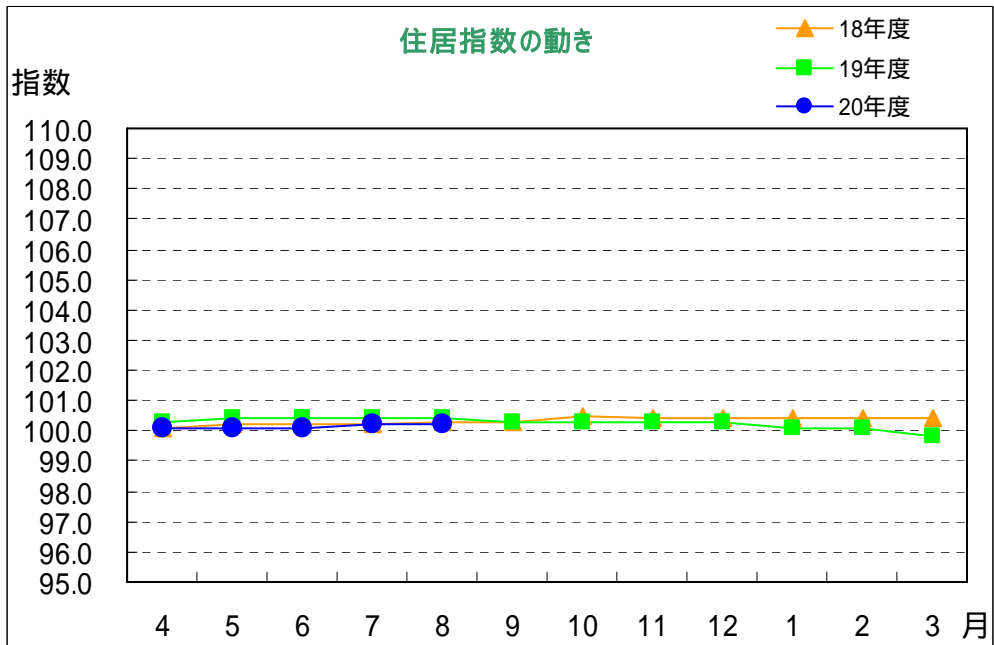
平成17年=100

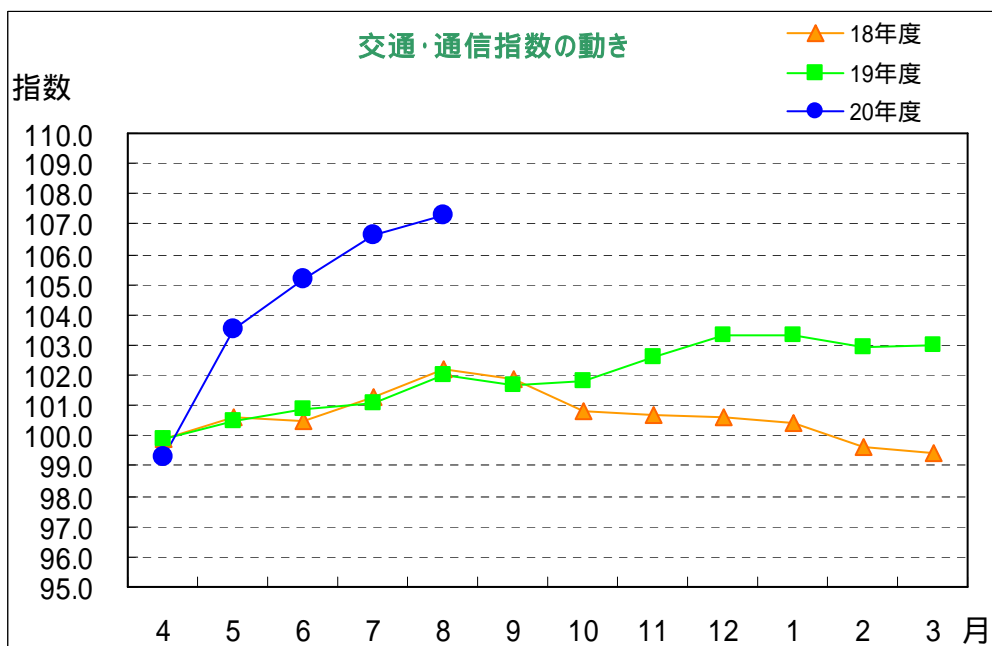
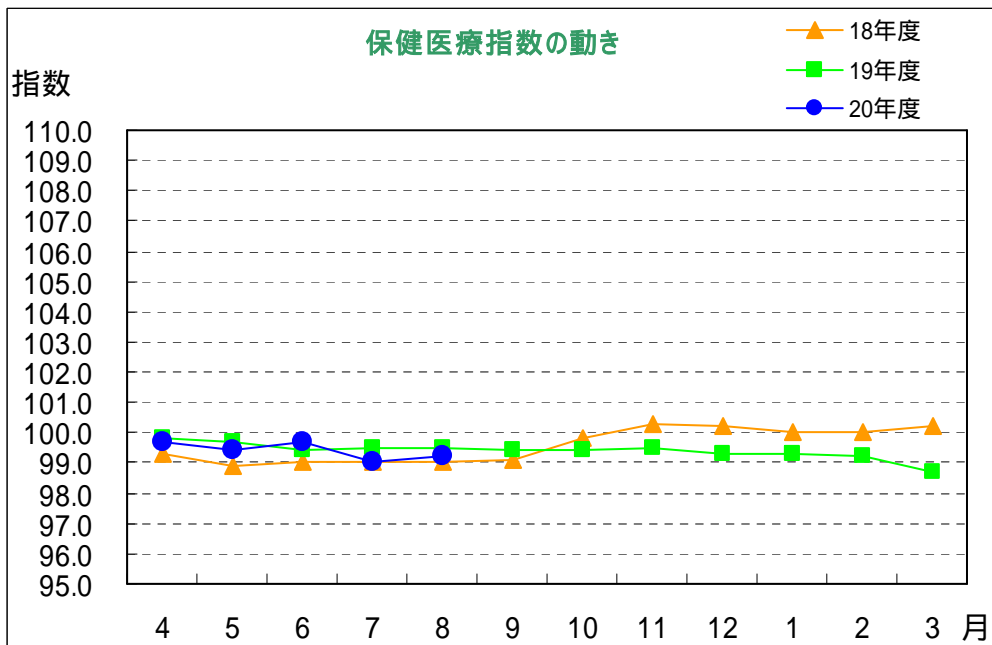
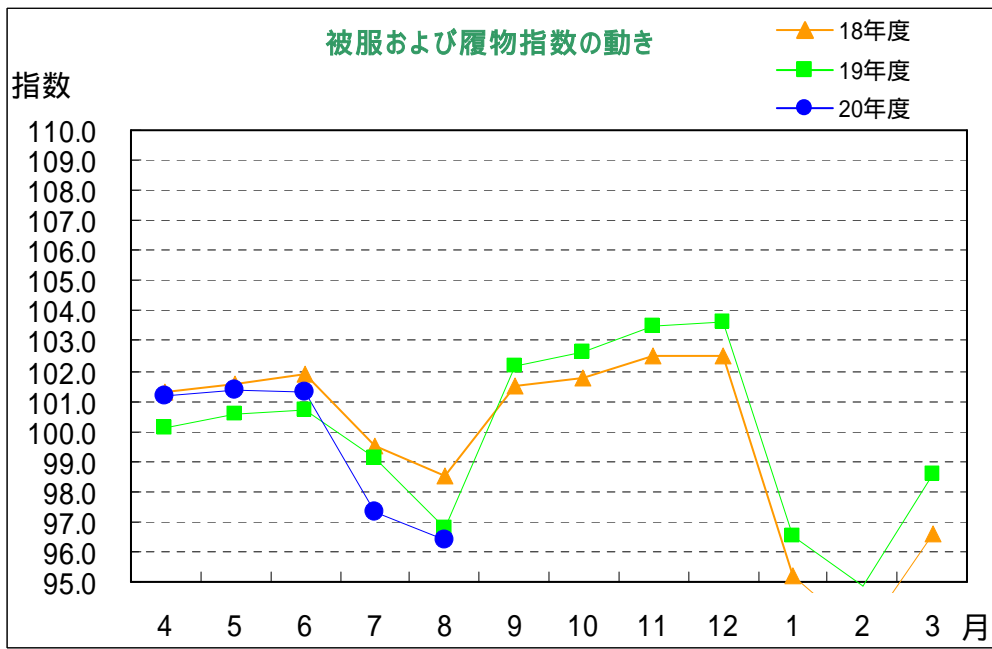
区 分	指 数	対前月		対前年同月	
		上昇率(%)	寄与度(*)	上昇率(%)	寄与度(*)
総 合	102.8	0.4		2.5	
生鮮食品を除く総合	102.3	0.3	0.28	2.4	2.30
食 料	105.9	0.6	0.15	5.0	1.26
住 居	100.2	0.0	0.00	-0.2	-0.04
光 熱 ・ 水 道	108.0	0.5	0.03	7.1	0.47
家具・家事用品	97.3	-0.4	-0.01	-0.3	-0.01
被服および履物	96.4	-0.9	-0.04	-0.4	-0.02
保 健 医 療	99.2	0.2	0.01	-0.3	-0.01
交 通 ・ 通 信	107.3	0.7	0.10	5.2	0.77
教 育	102.8	0.0	0.00	0.6	0.03
教 養 娯 楽	97.2	1.4	0.13	0.2	0.02
諸 雑 費	102.0	-0.1	-0.01	0.2	0.01

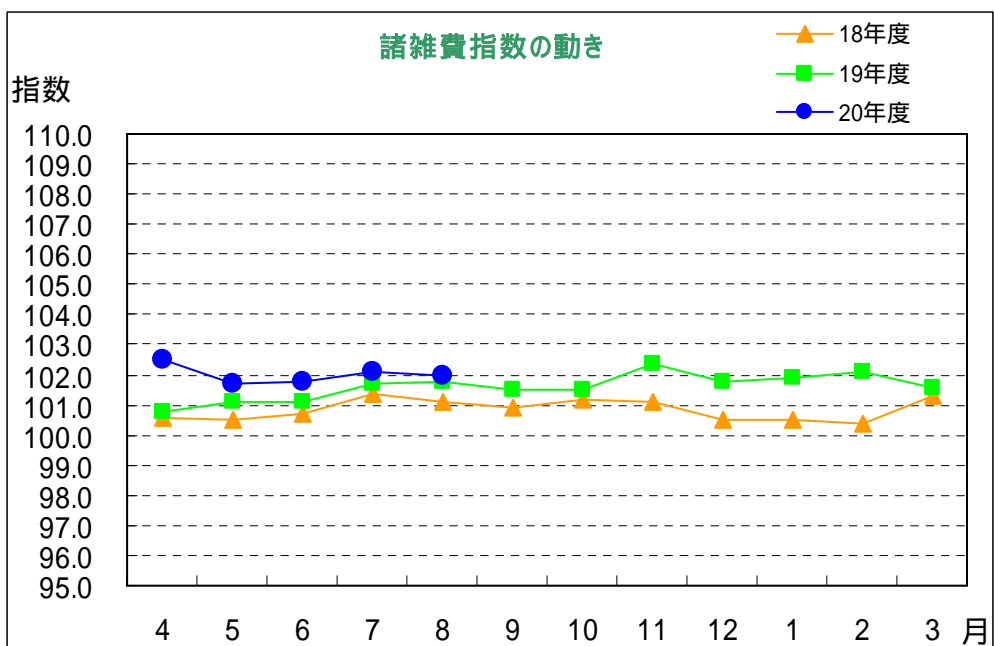
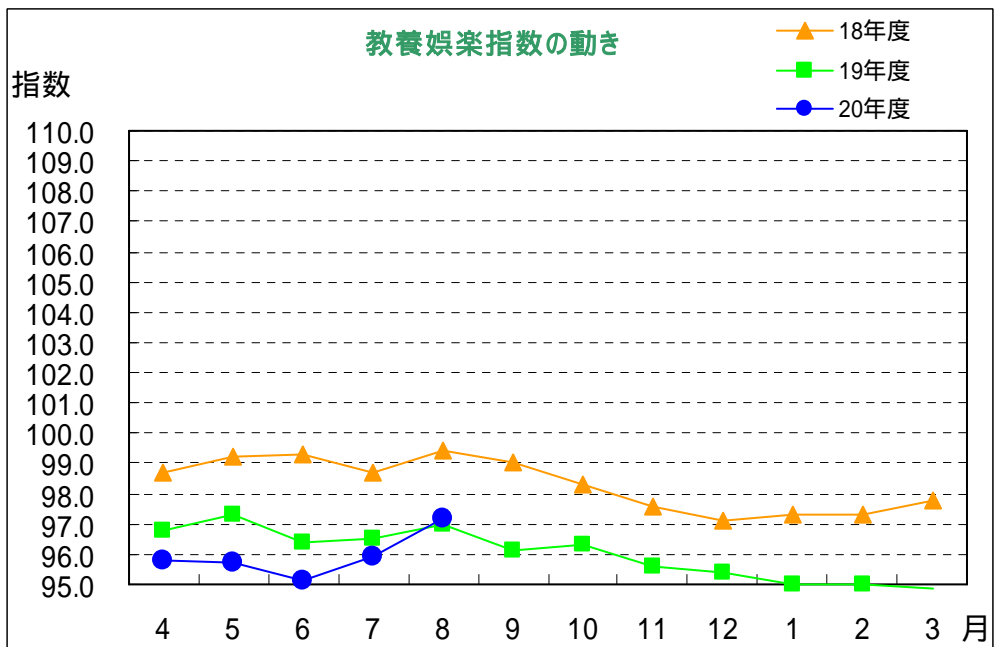
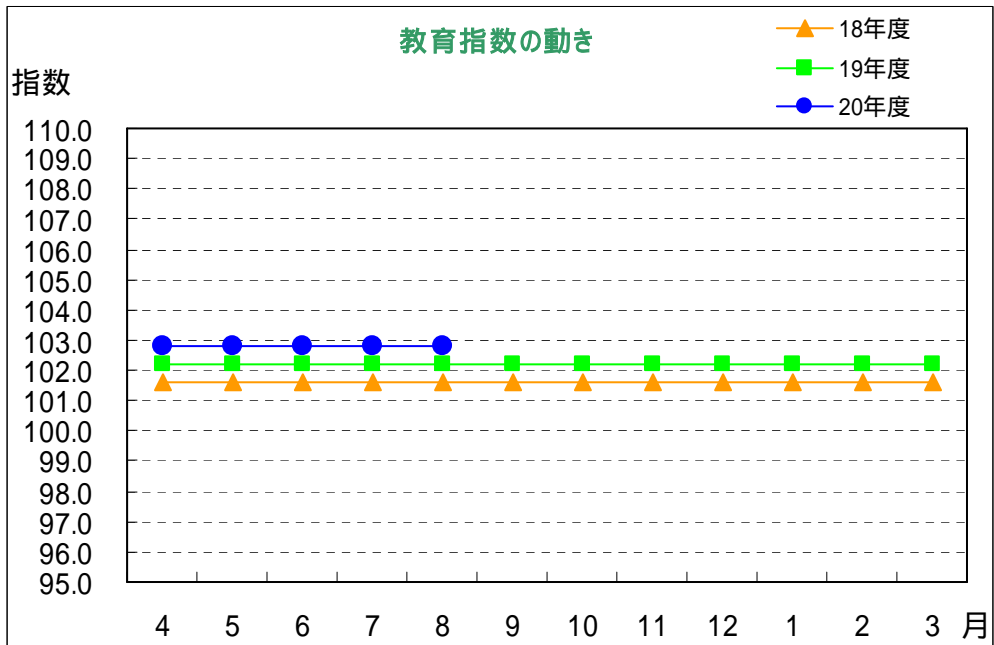
*寄与度：総合指数の上昇に対して各費目がどれだけ影響したかを示します。

10大費目別の年度比較









【参考】

消費者物価指数とは

消費者物価指数は、日常生活で私たち消費者が購入する各種商品（財やサービス）の価格の動きを総合し、平均的な物価の動きをみるために作られるもので、国民の消費生活にとって最も身近な指数です。日常購入する食料品、衣料品、電気製品、医薬・化粧品などの財の価格のほかに、授業料や家賃、理髪料、バス代などのようなサービスの価格の動きも含まれます。

10大費目とは

指数計算に採用する品目は、世帯が購入する多数の財・サービス全体の物価変動を代表できるように、家計の消費支出の中で重要度が高いこと、価格変動の面で代表性があること、さらに、継続調査が可能であること等の観点から選定された581品目に、持家の帰属家賃4品目を加えた585品目です。これらを大分類したものが10大費目です。